



孫接来煤奇縁

後編

五

遠13  
1579  
10止



特

門へ遠13  
冊1579  
巻10止



緋櫻春蝶奇縁卷之十

東都

曲亭馬琴編述

第十四段の下



十多郎の声を細く無慈悲なるその夜まゝ人を殺せ癖者のわひもあつて檀  
 那の袂に這ひともわたりて人のありやせんと思燈を滅くりて今后の明は比  
 ぬ所在を尋ねたが又被袂七つ細五郎との書送しつる詭をともひつて物に  
 添へる一封の書簡をまうかてさやくとぬり披き芳恩謝する小辞を。然と  
 りども夏の起つた口はさあつて争で貴兄を殺すべき人を殺せ罪人なりと  
 自訴せんとぬらぬ影の吾儕もた後小彼一物をさり復して夙志を果さ  
 せう。と書とぬらぬ自筆の状現せぬものさうとさうとも被七を死す  
 阿容と存命んとぬらぬ仇侠ゆゑとぬらぬ迷書の彼人の袖より送りぬひけん

系小嬰春蝶奇縁卷之十

〇一

いざりともいふ拾ひを。狭七の遂に疑わく。念地橋捕まらん二人は一人理會て  
夏の前と向定め。そのさびふて十き船が。牙ひらるを。此彼を救せん物とあへども  
姉はすうゆも若に頼む。往方を密に一人は在所をれども。巷の風聞のゆく  
危く一人へ。送書の送ふ。小糸をねて。純くも。こゝ隠まり。人の穢い人の為ふ  
ふらう。命を損ま。むらう。穢る。人の人を教せ。罪犯を。身小負ん。さ。の筆  
ゆも。能ざる。産言。文の。ど。死。白物。と。白物。と。を。び。く。を。繞。り。刺。殺。を。仗。て  
大ら。ある。罪。を。遂。じ。彌。五。郎。と。の。為。律。を。傳。ふ。望。み。悔。へ。も。わ。ん。腹。も。ま。ん。  
ひら。わ。る。狭。七。と。峯。隠。し。う。と。と。あ。き。ん。や。し。指。出。し。と。目。小。物。を。存。ん。と。い。は。れ。わ。く  
席。と。指。さ。る。を。傳。と。ん。又。さ。き。狭。七。も。今。の。忍。び。を。も。浦。團。と。と。推。揚。て。出。ん。と。す。ふ  
又。を。祈。り。も。阿。徳。の。夫。の。指。小。あり。て。忙。しく。十。兵。衛。と。推。禁。め。り。よ。と。這。ち。も。悔。ひ  
彼。人。小。あ。よ。も。面。る。を。見。ま。う。い。づ。が。む。ひ。ら。る。と。塔。と。ま。じ。斷。え。し。推。も。倒。す。と。世

人小のたままへ。い。ち。科。戸。の。風。の。お。さ。ま。ら。う。ち。も。騷。ぎ。さ。ら。波。立。ま。る。浦。の。い。ま  
下。さ。び。わ。か。ま。の。禪。と。同。人。の。こ。ま。れ。ば。と。又。今。更。小。ら。よ。あ。め。ゆ。中。の。花。と。も。も。教。へ  
口。が。夫。と。て。著。わ。る。い。ん。と。い。ふ。ら。も。横。さ。ま。あ。れ。る。は。海。和。く。つ。ら。い。と。や。産。灵  
の。神。謀。り。と。舊。の。夫。婦。と。あ。り。わ。り。も。盲。目。小。を。六。彼。方。より。い。ま。ま。ぬ。疎。ま。え  
闇。より。闇。に。迷。い。ま。ま。か。て。歎。と。ま。き。秘。人。より。真。意。を。み。め。と。見。え。ぬ。目。小。操。は。い。ね。ね。磯  
の。松。浪。の。底。る。程。の。為。あ。ま。ふ。あ。ん。と。豫。て。ま。う。あ。ひ。一。の。成。果。し。ん。其。後。り。死。ん  
狭。七。の。小。糸。と。あ。り。共。小。招。り。隨。繁。薄。不。町。へ。あ。り。あ。ひ。る。が。ち。ぬ。恨。ま。ひ。ひ。ら。小。父  
公。嬢。は。前。忽。地。と。言。事。の。家。を。結。び。う。え。と。悔。り。と。あ。ひ。ひ。る。ん。い。ろ。精。し。て。あ。き。ひ。小  
狭。七。の。り。小。遭。し。て。之。あ。り。ま。と。は。は。る。屋。の。好。ま。の。降。る。ぬ。夜。の。雨。小。脆。き。心。を。碎。ま。し  
小。糸。の。い。づ。浦。で。千。砂。の。波。堰。ま。む。か。う。わ。く。小。段。を。擡。人。の。う。ら。も。夫。婦。が。産。令。疑  
ま。と。今。更。小。退。る。ぬ。恨。を。い。ま。う。い。ま。け。ま。し。も。恩。を。受。る。桃。博。丸。の。生。死。の。際。を

系嬰春世奇录卷十



力なき声をたぐり。小糸は。野々有理と云ふ。何なく罵覺けて。面  
目。假初の情由もある。腹は三月の子のわが女房。夫を化小糸。まその夜直さ。死  
後。それより。堪も忍ぶ。あを死にと。あは理。は喃。抜七校七ど。公。あ。あ。ぬ。一。我  
の。い。それ。さ。ア。そ。腹。も。立。け。め。川。瀬。の。舟。の。遣。ち。か。ひ。當。て。碎。る。今。宵。の。始。末。の。糸  
合。小。怪。我。も。ま。せ。ひ。十。五。郎。が。楫。取。て。渡。り。せ。つ。く。ま。ば。夜。の。中。小。漕。戻。は。と。い。と。易。且。同  
い。る。と。狼。狽。さ。阿。總。勿。泣。小。糸。も。勿。泣。ま。づ。小。鞘。と。豪。奪。う。ち。返。す。つ。ま。ん。が。う。え  
く。刀。子。は。後。前。の。家。正。小。鞘。は。則。赤。銅。駒。子。に。金。の。胡。蝶。と。三。附。う。り。こ。い。た。抜。七。の。討。し  
げ。小。さ。秘。だ。ら。う。も。驚。死。夫。を。去。す。の。秋。の。比。親。と。親。と。相。譚。て。小。糸。が。好。と。某。の。婚。後。  
結。せ。り。物。小。疑。ひ。は。ま。う。言。う。吾。妹。子。の。底。の。水。屑。小。り。け。り。と。あ。ひ。め。の。せ。ひ。ま。い。ぬ。  
夜。阿。總。が。死。ん。と。せ。り。刀。子。が。是。る。ん。と。い。か。そ。こ。ま。そ。の。夜。さ。り。その。刀。子。と。さ。り。る。隨  
猛。と。糸。と。脱。去。途。と。小。糸。に。領。け。り。け。小。さ。で。小。鞘。と。う。も。う。ん。だ。か。る。

不。之。後。も。せ。ま。あ。れ。ば。あ。り。さ。る。め。の。故。と。や。と。解。ぬ。その。疑。ひ。は。さ。も。信。り。と。夜。と  
阿。總。さ。と。用。く。扇。を。字。せ。古。歌。一。首。且。用。は。初。燈。り。す。て。い。せ。の。海。の。む。る。浪。小  
さ。と。貝。の。い。わ。浦。の。春。を。と。ま。て。と。吟。む。れ。ば。阿。總。の。扇。と。推。向。て。抜。七。の。名。抜  
五。郎。ぬ。當。夜。に。牙。が。臥。房。の。中。へ。送。り。ひ。か。り。り。小。写。せ。古。歌。の。つ。ら。自。筆。と  
い。つ。て。お。ろ。く。疑。ひ。心。小。抜。七。小。糸。の。小。膝。と。ま。め。原。来。に。牙。の。去。年。の。九。月。ま。ま  
の。ろ。共。あ。る。海。の。そ。こ。ま。う。も。小。糸。と。板。子。の。名。と。ま。め。る。吾。妹。子。あ。り。や。  
阿。總。の。軟。と。同。し。阿。總。の。目。と。抜。七。の。板。子。の。亡。親。の。書。送。り。ひ。か。る。その。水。草。の  
跡。認。て。つ。ら。も。死。す。り。と。ま。ひ。も。疑。り。も。理。り。も。さ。り。ひ。も。ろ。の。危。く。も。暴。風。も。吹  
流。さ。れ。ま。れ。て。祀。の。浦。も。木。嬰。尼。不。助。ら。れ。今。ま。ま。夏。四。月。の。下。院。尼。は。あ。い  
御。導。せ。れ。謙。念。へ。あ。て。と。め。て。知。る。阿。前。の。横。死。良。人。の。逆。電。尼。は。あ。い。と。世。を  
去。り。し。で。よ。う。ば。の。ひ。ま。い。せ。め。て。その。迷。言。不。作。り。つ。不。町。の。事。を。あ。ら。わ。す。牙。長。す。あ。ま

阿部家系

夏草と。たはたしてある武蔵野の芝崎寺のむらうはて思提と。張らんつ。うごらん  
 夫と。適人として。舊里より。齋する。羽織と。その日失。十兵衛ぬ。一。敢。きて。木  
 尼。由。復。ある。糸。空。へ。か。る。棚。は。小。舟。浅。き。縁。と。い。ひ。る。が。ら。云。号。る。刀。祢。と。あ。る。を。  
 推。辞。せ。し。る。婚。姻。の。そ。の。夜。死。ん。と。せ。お。ふ。と。し。れ。小。鞠。の。良。人。の。記。念。獲。と。れ。  
 扇。の。つ。づ。が。自。筆。舊。へ。か。へ。う。う。せ。い。あ。り。で。ま。る。祥。る。り。け。ん。名。告。あ。り。る。つ。ふ。  
 面。と。あ。い。ま。る。は。し。る。さ。ふ。目。の。ん。え。ぬ。ろ。を。幸。る。れ。腹。は。二。月。の。子。あ。り。と。笑。く。妹。を。更。い。  
 妻。と。て。の。お。ハ。尼。よ。る。か。板。や。見。の。袖。の。う。ら。も。ほ。し。い。ひ。る。が。ら。い。ひ。と。く。小。  
 い。ひ。解。が。ら。い。羽。織。の。り。の。只。昔。の。ま。ぞ。面。が。せ。る。物。の。報。ひ。欲。過。世。の。業。候。草。花。  
 余。あ。る。婦。女。子。も。い。づ。か。う。い。の。も。あ。は。じ。又。あ。べ。や。と。か。口。後。涙。と。さ。り。小。咬。あ。は。  
 声。い。曇。ま。と。曇。ま。る。死。節。操。の。貞。女。の。境。も。と。と。十。兵。衛。且。因。を。嘆。賞。し。い。ん。や。  
 阿。徳。と。憐。れ。め。杖。七。領。を。不。悔。愧。て。額。は。流。く。汗。と。持。代。ア。と。死。ん。と。書。送。せ。し。

筆。の。今。も。今。又。は。惜。む。い。れ。再。会。い。し。と。回。さ。る。不。隠。と。涙。の。底。意。と。小。糸。流。  
 あ。ら。れ。じ。ろ。安。く。あ。る。物。う。ら。阿。徳。が。憾。も。も。と。と。慰。め。う。け。て。又。と。不。身。の。非。を。  
 飾。る。あ。ら。ね。ど。も。云。云。の。り。の。り。て。己。と。取。り。か。て。謙。愈。も。て。背。棋。と。い。ふ。老。女。を。教。し。  
 小。糸。の。共。さ。と。う。う。揚。る。又。の。下。不。名。告。け。素。生。を。受。け。不。憶。云。号。る。妻。と。妹。  
 父。の。遺。言。を。付。節。を。合。せ。奇。耦。を。感。ず。て。教。と。も。忍。び。む。聴。く。小。糸。を。携。へ。く。  
 篠。念。を。逐。電。諒。て。主。君。の。仰。を。受。け。陣。羽。織。を。索。と。て。穿。ち。あ。ら。う。羽。織。を。儒。  
 衣。を。乾。し。う。ら。な。熱。ま。い。か。今。殺。の。言。の。空。取。ら。う。守。り。と。微。生。る。信。小。糸。を。  
 竊。ふ。伴。ひ。の。ち。我。お。似。る。不。義。淫。奔。と。い。ふ。や。く。身。の。非。を。知。る。百。折。千。磨。  
 の。患。苦。を。経。て。も。志。を。移。さ。ず。阿。徳。が。苦。節。を。秘。さ。る。ん。や。嗚。呼。悵。つ。あ。や。ち。ら。ぬ。  
 と。つ。が。罪。を。責。む。罪。障。懺。悔。も。小。糸。の。よ。は。流。と。和。や。姉。也。あ。の。世。よ。る。人。に。夢。見。  
 う。が。ぞ。か。三。号。の。刀。祢。と。う。と。う。う。う。う。う。う。う。水。と。金。と。の。相。性。も。果。の。口。舌。の。方。外。







河原の願ふところの跡瀧一と鶏鶉樓曙明と呼ぶ。全盛世にさうなれば  
 前夜の嬢客子傷みの計をうけるおまをこのころひけん社社果のうげ死  
 の村とある東國より年毎に商物の為京のへりせ「一八」との嬢客の細五郎が  
 又多うた京洛の旅宿にあひ別て嬢客子管ふ事せしむ世にさう業の外中へ  
 妻とさる子とさるのへりける京洛の村奥向丸の債累より脱るぬるぬ  
 まふ吾儕も共ふと誘ふ。死鬼憑る嬢客のうとて「んぬ」へあはれぬども  
 情におまじ嬢客子実態とるおま思ふ義中弱り果て夜とあておのぬとこと  
 冥土の首途妓院と備はせりり。比へ九月十七日月の都も牙の杖は水鳥  
 さうく賀茂川原水底へり共中を郎の既沈む。吾儕とさるのへりさうども  
 伝勢へとぬる武士の浪人五十四番東六郎とさる入に救はれてその夜一とく安濃の  
 陣へ伴はる再生の思ふこの身をさばらう。一八ぬの横死のぬるおまはさうども

ある入るを徴伴ふ夫婦おるりて次の年とまれ女前へ好めて小草山子とさ  
 こも春の野山小挿の元又堂の中の珠それおまとて能く去年とさる今  
 年とさる一とくおまの迎へ一八ぬの七回ある骨のゆえ異なるおまのたかき吾儕の  
 所以もさる良人おまの疑はるその年の冬とさるおまの女前をさるさう止ぬ  
 子を属て去れり。往方定めぬ旅衣さうさるさくも舊里る。越路の見をさ  
 むら小渡と東名の津より思提は道守せられ天龍河の石とさるさう道は止ぬ子を  
 奪れて吾儕も愛は危さる。傳勢より武義へぬりおま元十番御刀柄は環会と  
 豊嶋の平町へ伴はるおまおまの武義は一八ぬの舊里る。その家へおまおまの  
 けは京洛と傳勢のさるさう曙明との名をさる匿てさうさるさうおまおまの因縁  
 一八ぬの身とさる。十能刀柄おまの推辞さるさるさうさるさうさるさうさるさう  
 三年とさるおまの急死は黄泉の客とさるさうさるさうさるさうさるさうさるさう  
 細五郎を

獲育赤巻の後家と申す。まづあがる身の果報合の世の子ごもらん  
いづかのけんりくじと申す。あめりくしをえよ。いづれかひよ。胸のこも。えぬ熱さふ  
年長て環会するふえの女児の面うりてそれともねえ。は。ま。早。せ。夫。乃。こ。め  
弒せ尺も長女かいく。追て物をあむ。い。を。淫。本。も。ね。次。女。瑠。月。祢。入。は。罵。詠  
めて賢態なる面も。よ。現。振。も。も。る。と。い。因。果。の。瑠。珀。の。塵。の。世。を。厭。て。あ。め  
阿。或。と。い。その。法。名。の。木。嬰。尼。一。八。ぬ。一。小。童。れ。縁。故。の。吾。儂。ふ。あ。つ。の。尼。比。前。の  
夜。と。受。し。阿。總。か。う。へ。を。い。を。こ。も。吾。儂。小。童。一。八。ぬ。の。そ。が。二。子。る。細。五。郎。ふ。  
憑。ま。も。故。と。瑠。月。祢。小。糸。の。共。は。親。子。同。胞。外。又。は。姪。ひ。と。席。は。取。夜。合。も。  
ま。ご。と。ま。ふ。れ。せ。と。ま。ご。小。多。ひ。屈。つ。さ。ひ。苦。か。せ。も。も。た。煩。悩。の。犬。と。獲。る。一。家  
の。口。舌。肩。も。ち。胸。も。て。笑。ふ。日。の。下。目。も。る。ひ。寛。魂。の。る。身。執。念。深。も。廣。縁。け。ん。  
ま。れ。ご。と。め。れ。子。ご。も。ら。へ。い。操。と。標。致。三。人。も。く。小。勝。も。も。幼。推。う。一。幸

あてて照る日の下小あつるがら。恵まのれ。雨の花漁村の柳も。れ。遠津は海の  
離る。舟。碇。も。そ。水。底。の。底。の。水。層。と。る。の。ひ。東。六。ぬ。の。あ。や。れ。終。焉  
そ。と。持。り。移。て。自。殺。せ。て。文。所。平。ね。の。う。ま。よ。ま。け。が。あ。り。寛。鬼。の。崇。ま。の。と。と  
抑。美。や。その。殊。危。と。賀。茂。河。の。あ。れ。の。と。多。の。安。濃。の。宿。庭。の。貧。へ。清。け。れ  
ども。身。の。濁。江。の。雌。雄。松。千。年。の。遠。近。を。う。る。東。六。ぬ。と。こ。一。対。の。酒。酌。の  
せ。不。盡。の。糸。も。深。ゆ。秋。の。夜。は。過。素。一。の。物。終。せ。この。終。り。と。物。の。怪。の  
水。や。う。つ。崇。る。と。衆。名。の。津。天。龍。河。七。五。里。と。う。ま。え。る。離。も。月。日。も。遠。江  
一。八。ぬ。の。十。七。回。是。水。泡。と。う。り。一。舊。吏。の。け。の。正。一。周。忌。股。れ。ぬ。吾。儂。も  
終。の。友。後。と。死。物。の。山。の。壇。れ。あ。め。あ。を。小。一。川。川。と。の。字。の。あ。り。を。海。か。を  
り。保。れ。罪。障。も。極。樂。水。の。名。の。に。て。この。世。も。る。る。八。寒。地。獄。水。も。起。り。と。水。も  
終。る。因果の道理を今と。示。悟。と。の。の。嗚。呼。る。が。ら。大。く。と。世。の。人。と。う。を。了

惑ひ情の意とて生涯を悔りの甚なるに至る身を教さものと多う入  
ものれ子ごものうみ又み做ひと母をめて身の穢とまもる。初ひひた  
ととのと鏡のうへる寡鳥 鴛鴦の翫羽つとると非命も死る寛魂の  
崇も釋て子ごものうみ長閑に春よあめうのらん。とるうはくさひ露の露と  
覚る十二年今宵えうらぶ名告めぬ脱子の過世の仇のけん 驚ためある  
歎ととらうくいの物うら。只生憎よとらうる涙を拭めて臂近る。胡蝶の  
小鞠を挫らう。玩のわらうへ閃く突とんとととらうる。

第十五段

黒平を殺しく細五郎戦袍を覆き  
寛魂を鎮く折櫻尼夫婦を分つ  
阿總小糸の泣叫びて母の右より左より 慌忙推禁り加らう乱直るあや  
ましく環会るがら。さまで下見の老親も受むらとらうるあやうらうる。

暮ひあわせ。同胞が又後くまで憂を慰むとらうるけいひるさく  
一周忌と六七日も眠るは牙のうらるふ粉ひて一巻の経も補せどと  
罪多らるる。とらうら歎れてはるりの汝自害の母母も全際ととく  
えて平のあらん 懺も責ゆる物の怪をけらる初とらるる。女児うらうふ代  
らして死ととと同胞が候とらるは諫且六日閉も其は沈と阿總の幸平の  
九月まで養への思うふ付しとといと病眼不閉られて今般の母を  
んまとらるる。小糸の又六才の冬より仇の為よまると終て養への面  
福の環會人と母も子も初ひの十二年名告めぬ夜の中も忽地母を喪  
不わらうらんととらうも初るる果も天の責怒禁めて初も辱を累させん  
不孝と其知退ると躬を交てぬとび死人とまらじらう。十廿歳狭七六力を勤て  
あうの獲乃で後うらうらとらう。或は利害を鏡給。或は経慮とのひ懲て小鞠を

因と推  
果と説  
寛と魂  
得と腕



握持しり。春を女を推搦めて刃をきんとする。夜よ。さひのけいど貴子  
の下より。と突あして刀尖は。早用ハ忍死太股のけく小腹を刺して阿と叫ぶ。  
鮮血致と横と。腹背吐唾。さうら鷲死。十兵衛ハ遠く。早用を捨たて  
引退。抜七ハ蒲團を刀尖へらら被て。さ。苗席薦を丁と反揚つ。備乃  
戸棚蹴ひたて。内なる刀を把る。ゆも後。柵掛る。貴子の上より。土まを  
徹と。と突ら。と。癖者ハ。名。ゆ。り。けん。律。空。と。ゆ。て。さ。さ。と。さ。ん。ま。さ。の  
右邊る。竹。堀。う。太平。祀。漬。抑。兵。衛。ハ。袖。の。と。く。潜。り。出。踏。石。ハ。隻。足。を  
の。り。て。呵。と。冷。笑。ひ。物。共。い。と。騒。ぎ。を。せ。し。ま。半。响。黒。平。も。小。糸。ハ  
元。来。ハ。賊。物。抜。七。ハ。姨。の。仇。を。い。じ。直。矢。殺。一。役。を。奪。ひ。て。物。よ。せ。る。や。と  
さ。ひ。く。さ。の。五。音。の。夜。の。雨。ハ。濡。つ。只。管。通。ひ。く。も。夏。後。ま。せ。往。方。を  
さ。ぶ。ば。送。憾。く。る。お。さ。さ。は。も。汝。亦。兩。人。ハ。隠。家。の。り。と。近。く。宿。所。を

求て。ま。れ。る。ハ。命。を。逃。る。材。の。鬼。今。を。ま。ら。抜。七。を。殺。し。て。小。糸。ハ。奪。り。と。ん  
と。く。貴。子。の。下。へ。入。る。羽。ハ。四。五。人。は。つ。口。張。る。鼻。の。口。舌。ハ。耳。を。う。く。と。さ。ひ  
ご。も。時。を。移。し。抜。七。ハ。動。静。を。考。て。一。刀。を。さ。ひ。く。刀。尖。を。ひ。く。後。家。奴。を。芋。刺  
又。を。さ。ひ。く。さ。め。ら。れ。て。も。抜。七。ハ。武。士。の。果。る。ハ。殺。り。と。い。て。あ。り。や。せん。  
緊。要。の。と。さ。と。と。深。念。く。小。鳥。流。さ。め。く。耳。を。う。く。甲。夜。う。り。鈴。を。二。ツ。玉  
送。り。も。い。る。腕。と。さ。に。祝。念。せ。ま。と。隻。ハ。お。聚。る。は。筒。頭。と。さ。一。向。れ。抜。七。ハ  
さ。と。十。兵。衛。も。怒。り。の。ほ。ろ。と。齒。を。切。り。と。ら。創。え。ん。と。焦。燥。も。鳥。苗。神  
機。ふ。せん。と。さ。さ。の。く。席。薦。を。揚。て。指。と。ら。の。と。危。く。さ。え。さ。る。お。已。あ。り。の。苗。の  
青。と。さ。め。く。一。五。二。十。を。竊。め。る。虚。無。僧。ハ。遠。く。天。蓋。を。め。り。捨。門。の。戸  
さ。と。と。推。開。く。飛。を。の。ど。く。跳。入。り。尺。八。の。苗。を。揚。て。今。さ。半。响。黒。平。を  
抱。え。と。せ。し。半。响。が。鳥。銃。を。只。一。打。し。打。た。せ。る。黒。平。は。さ。鷲。を。れ。兩。三。歩。け

飛で頭を甲倍とらて。捕縛九つ。このせもあど。細五郎の首投捨つ内にと  
 引抜く懐劔の光り。この小黒平が頭へ地上に礮と墜。軀も共々仕置り。  
 十兵衛救てハやうら。危窮を救ひ。細五郎が。あやも異。打拵。或は  
 研り。或は飲。まづその恙。あれを殺して。日來の。以。訊。慰。ふ。細五郎と  
 身もあど。黒平が。軀を。断。せ。上。る。衣。を。切。解。つ。下。あ。せ。一。文。字。乃  
 陣羽織を引出。て。終。く。絞。せ。が。り。小。園。に。れ。重。罪。を。犯。ま。ら。容。を。變。面。を  
 匿。し。此。後。不。惜。を。の。終。て。本。意。を。あ。ら。わ。る。も。和。殿。と。誓。ひ。一。言。を。食。と。黒。平。が  
 所在を密存。の陣羽織を。取。んと。け。か。か。の。存。令。え。あ。る。小。和。殿。ハ  
 巨六ボが扶助を。給。く。小。糸。の。ろ。と。も。の。如。く。處。を。し。と。所。は。け。て。細。の。と。あ。く  
 心。み。ぞ。律。の。中。を。と。ん。不。平。と。て。竊。お。預。め。て。燒。旦。用。阿。總。小。糸。が。奇。く。再  
 會。懺。悔。の。意。首。より。尾。を。で。竊。取。つ。この。意。も。あ。ら。わ。る。も。あ。る。も。早。用

刀。祿。年。末。の。丹。精。ハ。実。の。叔。母。小。糸。一。つ。思。愛。を。が。央。と。も。善。食。ひ。や。ま。む。  
 心。の。非。余。お。拈。と。り。あ。る。阿。總。小。糸。が。長。傷。を。お。ひ。か。き。ま。い。と。痛。し。と  
 い。ま。旦。因。を。目。を。ひ。ら。け。ら。ん。ら。の。の。あ。ら。は。せ。ぞ。阿。總。小。糸。ハ。な。か。あ。り。  
 残。員。の。母。ま。り。著。を。泣。沈。ま。黒。白。を。別。と。細。五。郎。ハ。此。後。を。つ。く。と。ん。て。歎  
 息。一。人。の。齡。ハ。五。十。年。後。も。先。も。一。瞬。の。中。あ。り。且。ハ。是。より。八。王。寺。の。  
 痛。谷。殿。へ。推。糸。を。推。し。て。罪。を。死。人。狭。七。和。殿。ハ。陣。羽。織。を。鎌。倉。へ。齎。し。て。思。考。を  
 入。主。志。自。へ。こ。し。今。生。の。別。は。と。と。若。別。と。せ。ん。と。ま。る。依。杖。と。十。兵。衛。左。右。り。  
 推。糸。ハ。且。不。振。を。も。ち。ま。り。出。る。門。口。ハ。捕。の。兵。士。五。人。脱。さ。と。聞。さ。る。背。後。ハ  
 御。音。く。猶。矢。三。個。の。兵。士。背。より。胸。前。へ。射。徹。さ。れ。その。矢。あ。り。て。又。一。人。お。下  
 ま。り。又。一。人。ハ。残。る。二。人。ハ。た。た。驚。勢。に。煙。を。甲。け。射。入。と。ま。る。小。糸。を。射。つ。る  
 る。足。の。こ。み。み。悉。射。仕。さ。る。細。五。郎。ハ。この。光。を。見。て。疑。ひ。感。ひ。く。ゆ。も。進。ま。ぬ。



折櫻とは号して紀の加田浦は勢をふる。其如く菴を掃る比有一夜の夢に  
 異人は値遇して忽ち悟道一人の吉凶禍福を推さふ大なる違ふ事  
 なり。原この尼が良人は別子子を捨て出さるる。いづれをたすをある  
 ちうとも怒れしるから。亡夫の先君憲廣朝臣何如して嗣親のひけん吉  
 倚は懸想しひて。まづく艶書をもつらぬ。このあまのたすをある主君の  
 不承の責が。それごとく道ありぬ仰ま提ひぐ。進退ごま突つてあま  
 のを良人は告げ。別頼死と披露して飽ぬ別子も所天の為主君のあまの  
 子の為は不慮の出来物怪の微律恩愛の羈を断て。倭へて千九十年  
 世のうゝ不安うらね。それゆゑ今和殿が自教の根柢を推して死の主君の懸  
 想しひる。小糸を教て禍を截断んとしひつ。却小糸を教しひる。この女子を  
 誘引て逆電しるもみまこれ因果既先君憲廣朝臣一旦の惑ひひる。

矢野平ぬは宿愛の妻と棄さるひる。亦是當主憲政朝臣の下とび  
 懸想しひる。小糸は其の子を奪れぬ。ぬれば是貴賤をわかれ。それとも  
 る母をそれ。警告てもる月戒め。慎むと好色あり。さりとも。只管因果の  
 道理を泥て。みづる許さるひよく不承あり。夫賞罰の君より出従身乃  
 非と知といふとも。還て君を問ぐ。いづれか小糸死んと云ふ。甚くは惑ひ  
 る。あまの。このあまの打擲して。且く自教を禁。いづれか母がれらる。比と  
 つる狭七の驚嘆。坐し涙を流さる。拈掃の又衆人より。對ひ尼が  
 紀の浦小存比教化し。木嬰比丘尼の綱五郎が母や。一八子去る  
 といふも。つらむりも。過失あり。いと貞実の婦人なれば。神佛彼が不幸を  
 憐れ。父一八の違ふ事。その子の母の徳と承。又その旦那路の残花  
 その非を責る。是も縁とも。罪たす。自教をひ。悪棍は傷らる。家期乃



懺悔を可女鬼ふらりが患難流浪を人の妓と奪ひしる東六郎が不  
 義より生せり且小糸も既も罪あり背棋を恩義とても養れざる母あり  
 狭七の姉小縁ありとも背棋が骸も飲む狭七とても小をじりのひとて  
 道ありべ又十女周の妹且周が昔悪を匿して一八が身ある十も他が妻あり  
 せとも甚しの過失あるれもも平末の孤忠とて許走とても許さるべし  
 抑祢原五十四塚の豊嶋左衛門が子孫ありわうもを討死せしと死  
 推さ子も二人あり長男二男の捨とありの後も山内の管領は仕なると  
 神原五十四塚とて召れり狭七阿徳小糸ホハち三世の孫ありのわく  
 豊嶋が季子と市人ありのわうも細五郎が先祖ありの因縁と推走  
 とた阿徳一旦狭五郎と婚縁と結ぶとも父物事小鞆の扇のかの  
 かの舊のわつりしの夫婦の縁とて結の今改の阿徳とて細五郎の

妻せらるの昔加茂の川邊の東六郎小曙明を奪れりの一八が外の心も  
 ちふ教のべくの罪も取りて賤のべしの尼の武の承へ成る比の徳を包こ  
 光を埋も思夫愚婦を怨教の人間は快樂の世の形容を側のしく  
 とう汝達のひもまもうのさもうの扇谷の服の臣岩藤尾乃右衛門の  
 高量の両管領のまもうのよりの紙をやはえのあのげの又の文字の障羽織の  
 原建長寺の什宝のいもまもうの加持の阿徳が眼病を治す  
 得せせんのとの説の示の念佛十遍の唱の行の奇のあるの形の彼の羽織の  
 光明教の変のとの阿徳が面を鳴のとの病眼を扱のとの金のうの物をとのるのとのはの  
 工の時の小屋の棟の音の楽のゆえ寛の魂を得の脱の且周の寂期の苦の悩を  
 ちのとの睡のるの随の又の息の絶のくの阿徳小糸の又の更の又の声を合のての泣のけり  
 浩如の岩藤尾乃右衛門の南蛮の腹巻の十五の匹の膺の當のてのらの糸の布を

承明堂春華音縁卷十

十六



憲政一文字の  
 獲て途よ  
 勲賞を行ふ

の政

岩藤辰右門

長谷川春

系...  
 系...  
 系...



十兵衛

七

平首級

五郎

子

子

系...  
 系...  
 系...

女被之夥兵をおく徐々と裡面より。綱五郎亦より対ひ。且は陸と  
 両管領の命を受山賊伍平太を捕んと。獸艦師も打拵て水を圍つと名  
 告り。且くこのやうなあり。さうふよう。甲夜より。夜は違が夏の為倅を  
 笑し。且綱五郎が為お討ひの兵士も射を殺しぬ。志とむや件けんの兵士等も  
 山魅が残黨あり。名を管領の討ひお断り。怨状返さんとするの事。これぞ  
 いぬ日圓塚にて。綱五郎は殺されし。杖七と追捕の兵士も。伍平太が支  
 黨の小賊ホでありたり。いぬ夜阿隅田河のりより。緋獲は  
 偷見ホが首伏ふより。こま派者。又黒平微八ホは積悪の癖者あり。が  
 こま派殺して。切り。武士も及ぶ。雑隊九天晴と。扇を扇きと  
 のみだ平る鮮曉の風。雲井の尸も代り。列と乱る。人馬の足音。これら  
 ある大將ぞ。但見ハ管領憲政朝臣。此度鎌倉を進發。上野平井へ。城の

初表路の程と折も。この如き。巨六幡丁。進んで。綱五郎  
 等。不意に。へ。食違へ。出迎。外つて。お。俵。な。れ。ハ。長尾。景春。會。釋  
 して。杖五郎。綱五郎。ホ。より。対ひ。近。曾。主。君。帰。城。の。談。わ。う。音。角。鎌。倉。へ  
 百。一。く。へ。獲。く。平。井。を。起。程。い。ぬ。五。日。の。曉。方。不。忍。の。岡。と。う。つ。伍。平。太  
 微。八。を。撃。つ。綱。五。郎。が。為。倅。と。う。つ。後。日。の。為。不  
 悪。棍。ホ。が。脱。捨。る。我。夜。後。者。よ。こ。ま。と。取。り。途。い。と。う。七。の。程。扇  
 谷。の。家。臣。も。岩。藤。生。不。遣。て。ゆ。る。綱。五。郎。が。志。の。集。り。伏  
 感。佩。し。且。綱。五。郎。が。こ。ま。派。の。越。と。主。君。の。咄。え。の。げ。と。う。の。み。り  
 杖。七。ハ。帯。く。綱。五。郎。の。う。共。一。文。字。の。陣。羽。織。と。景。春。不。遣。す。綱。五。郎。が  
 勇敢。信。義。の。越。と。演。説。し。景。春。背。棋。か。も。つ。主。君。の。名。實。以。記。され。し。  
 攝。善。を。返。す。お。ま。ん。憲。政。馬。上。不。南。神。原。杖。五。郎。善。の。死。や。汝。が



綱子（こ）の糸（いと）へ糸屋（いとや）へ抜（ぬ）ふらる。抜（ぬ）七（しち）を昏（こ）ふ亦（また）是（こゝろ）奇（き）縁（縁）徳（徳）はよまされて  
 此（こゝろ）の糸（いと）の（こ）鞠（ま）子（こ）探（た）見（み）の（こ）歌（うた）の（こ）春（はる）まららぬ。使（つか）客（きやく）節（せつ）婦（ふ）の（こ）夏（なつ）の（こ）跡（あと）の  
 越（こ）す（こ）へ（こ）異（い）る（こ）れ（こ）も。我（わが）太（た）夫（ふ）曲（まが）と（こ）の（こ）の（こ）も。せう（こ）へ（こ）傳（つた）へ（こ）と（こ）る（こ）ん。

玄（こ）同（と）陳（ちん）人（じん）批（ひ）し（こ）道（どう）真（しん）舜（しん）の（こ）聖（せい）ふ（こ）あ（こ）ら（こ）う（こ）せ（こ）。竟（けい）の（こ）二（に）女（にょ）を（こ）取（と）り（こ）て（こ）妻（めかけ）と（こ）る（こ）ん（こ）と  
 よ（こ）と（こ）せん（こ）や。抜（ぬ）立（た）郎（らう）多（た）ひ（こ）得（と）く（こ）糸（いと）と（こ）夫（ふ）婦（ふ）ふ（こ）ら（こ）と（こ）死（し）へ（こ）又（また）その（こ）姉（あね）を（こ）娶（めと）り（こ）ふ  
 由（よし）は（こ）非（ひ）の（こ）落（お）令（れい）の（こ）女（にょ）子（し）を（こ）憐（あは）れ（こ）ま（こ）す（こ）。あ（こ）ら（こ）月（つき）老（らう）求（もと）人（じん）更（さら）良（ら）縁（縁）と（こ）信（しん）  
 と。綱（こ）五（ご）郎（らう）が（こ）妻（めかけ）と（こ）る（こ）の（こ）又（また）母（はは）の（こ）因（いん）果（くわ）を（こ）あ（こ）の（こ）と（こ）る（こ）べ（こ）。あ（こ）の（こ）く（こ）その（こ）乃（なり）  
 徳（とく）ふ（こ）る（こ）も（こ）人（じん）と（こ）ん（こ）じ（こ）。天（あま）下（か）部（ぶ）の（こ）小（こ）鏡（かがみ）の（こ）人（じん）物（ぶつ）を（こ）論（ろん）じ（こ）れ（こ）バ（こ）綱（こ）五（ご）郎（らう）と（こ）阿（あ）比（ひ）の（こ）其（その）  
 仍（い）狀（じやう）不（ふ）現（げん）る（こ）の（こ）と（こ）し（こ）て（こ）是（こゝろ）賞（しょう）と（こ）し（こ）置（お）癡（ち）情（じやう）と（こ）速（すみ）風（かぜ）を（こ）傳（つた）へ（こ）智（ち）を（こ）  
 婦（ふ）幼（ごう）と（こ）為（な）ら（こ）ん（こ）や。他（た）者（しや）の（こ）用（よう）を（こ）と（こ）る（こ）あ（こ）ら（こ）。他（た）者（しや）の（こ）用（よう）を（こ）と（こ）る（こ）あ（こ）ら（こ）。

絲櫻春蝶奇縁卷之十大尾

書

林

京都寺間通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 南傳馬町壹丁目	山城屋政吉
同 下谷御成道	英藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
同 司	和泉屋吉兵衛
大阪心齋橋筋本町角	河内屋藤兵衛
大阪心齋橋筋博労町角	河内屋茂兵衛板

